

高校生対象

覚えておくにと**とても**役立つ

精選英熟語 100 Vol. 3

201

外に出るやいなや雨が降ってきた。

() () had I gone out () it began to rain.

201 **no sooner ~ than ...** 「～するやいなや・・・」

ほとんど例文のように倒置形になる。平叙文に直せば、“I had no sooner gone out than it began to rain.” で、I had gone out 「私は外出した」(過去完了)と it began to rain 「雨が降った」(過去)の二文が、「するやいなや」を表す no sooner (than)でくつついた形。

(No) (sooner) (than)

202

雪のため外に出られなかった。

The snow () us () going out.

202 **S keep A from ~ ing**

「SはAが～することを妨げる/防ぐ」「SのためにAは～できない」

from の後は名詞もしくは動名詞(~ing)。例文は「雪が私たちが外出することから妨げた」が直訳だが、無生物主語を「原因」に訳すのがテクニック。

(kept) (from)

203

私たち自身が結果に対し責任を持たねばならない。

We ourselves have to be responsible () the results.

203 **be responsible for ~** 「～に対して責任がある」

「～に対して」の訳につられて前置詞に to を入れてしまうことが多いが、for が正解。to が入るのは目的語が「人」のときだけで「事柄」はすべて for になるのを忘れないように。

(for)

204

彼は気質が父親に似ている。

He () () his father in disposition.

204 **take after ~** 「～に似ている」

動詞一語で表せば resemble だ。状態を表す表現なので、進行形は使えない。よく似た形の熟語で look after ~ 「～の世話をする」があるが、これと混同するとまったく文意をとりそこねるのが最大の注意点。

(takes) (after)

205

パーティーはいつ行われるのですか？

When will the party () () ?

205 **take place** 「起こる/行われる」

おもに予定されていた出来事、事件などが起こるときに使う。この点で類語の **break out** 「勃発する」と区別しておくこと。

(take) (place)

206

私たちの仕事は多数の人間を必要とする。

Our business () () a lot of people.

206 **call for** ～ 「～を要求する」

一語で言い換えると **require**。call も for も見慣れた単語であるため、知っていないと見逃してしまいやすく、そのために文脈を取りそこなうことがあるので注意。

(calls) (for)

207

きょうはたばこを吸う気がしない。

I don't () () () today.

207 **feel like** ～ **ing** 「～したい気がする」

like はここでは前置詞で、「～のような」の意味。後には動名詞～ing がくる。類似表現で **I would like to** ～ 「～したいものだ」は **feel like** より強い希望。

(feel) (like) (smoking)

208

彼は、いわば迷える子羊だ。

He is, as () (), stray sheep.

208 **as it were** 「いわば」

文中で挿入されて使われる。“**He is, as it were, a walking dictionary.**” 「彼はいわば歩く辞書だ」などは例文としてもよく出てくる。so to speak と同じ意味なのでセットで覚えよう。

(it) (were)

209

彼には我慢できない。

I can't () () () him.

209 **put up with** ～ 「(～を)我慢する」

この熟語は、各単語の意味からは想像のつきにくい意味を持つので、穴埋めであれ和訳であれ、知らないと解答が難しい。一語で言い換えると **endure** で、言い換え選択問題でよく問われるので一緒に覚えよう。

(put) (up) (with)

210

彼は政治家というよりむしろ商人だ。

He is not () () a politician () a merchant.

210 **not so much A as B** 「A というよりはむしろ B」

たいせつなのは A と B との関係。「A のほうが **so much** でない」といことで、「(結論として) B である」というのが言いたいこと。長文で、A, B に当たる部分が長い場合は、A と B を書き抜いてみるとはっきりする。

(so) (much) (as)

211

この薬はそれ自体では毒はない。

This medicine is not a poison () () .

211 **in itself** 「それ自体は」

「それ自体の中で」などと訳さないこと。**in itself** は熟語であり、文中の物や事を受けて「(その物、事)それ自体では」の意味で使われる。指示される物、事が複数ならば、それを受けて **in themselves** となる。

(in) (itself)

212

私はときどき映画を観に行った。

I went to see a movie once () () () .

212 **once in a while** 「ときどき」

同意語で **(every) now and then** (→229) もよく使われる。どちらも解釈で必要になるので覚えておきたい。同じ意味を一語で書かせるような問題で、いちばん簡単なのが **sometimes** (注: **sometime** 「いつか」ではない) で、さらにもう一つ、**occasionally** を知っていれば申し分ない。

(in) (a) (while)

217

彼は潔白であることが判明した。

He () () to be innocent.

217 **turn out** 「(～であることが)判明する」

turn には「回転する」の他に、「変わって～になる」(= become)の意味で使われることがある。これに out「外へ」がついて「(～であることが)判明する」の意味になる。

(turned)(out)

218

その当時、アメリカは英国から独立していなかった。

In those days, America was not independent () the United Kingdom.

218 **be independent of** ～ 「～から独立している」

independent の後には分離を示す of がはいる。depend on ～「～に頼る(依存する)」と混同して on にしないこと。場合により「自立している」「独自(無関係の)」などと訳したほうがぴったりくることもあり、文脈で訳し分けよう。

(of)

219

きみはそれら難問に対処しなくてはならない。

You have to () () those difficult problems.

219 **cope with** ～ 「～を(うまく)処理する」

cope だけ単独で出てくることは少なく、ほとんど with を伴って出る。類義語の deal with ～のほうは単に「取り扱う」(= treat)の意味だが、cope with ～のほうは、「うまく対処する」というニュアンスが含まれる。両方とも with とセットで覚えておこう。

(cope)(with)

220

公園にはかなり多くの子どもたちがいた。

There were () () () children in the park.

220 **quite a few** 「かなり多くの」

知らないと、いったい多いのか少ないのかわからない熟語だから、丸暗記がベスト。not a few も同様の意味。“few” に目がいくとつい「かなり少ない」などとやってしまい、文意が正反対になるから要注意。only a few ならば、「ほんのわずかな」になる。

(quite)(a)(few)

2 2 1

交通事故のため会議を延長せざるを得なかった。

We had to () () the meeting because of the traffic accident.

2 2 1 **put off** 「延期する」

例文の()が一つだったら postpone。二つあるから put off になる。後には名詞だけでなく動名詞もくる。英作文でも「延期する」はよく出てくるが、postpone を忘れたら、put off で対処する。例文をよく読み、いつでも使いこなせるようにしておこう。

(put) (off)

2 2 2

私はその理由を説明しようとしたが無駄だった。

I tried () () to explain the reason.

2 2 2 **in vain** 「無駄に」

訳出が難しく、和訳問題ではひとひねり必要。ポイントは、「むだに～した」とまず文意を読み取り、訳出は、「～したがむだだった」とする。

(in) (vain)

2 2 3

地震が火災を引き起こした。

The earthquake brought () () the fire.

2 2 3 **bring about** ～ 「～を引き起こす」

「～を引き起こす」というときにいちばん使いやすい熟語。英作でもときおり出てくる。前置詞の about に注意して覚えよう。類似熟語に come about 「～が起こる」があるが、これは“The earthquake came about.”「地震が起きた」のように自動詞的に使う。

(about)

2 2 4

明日は、昔の友人が訪ねてくる。

An old friend will () () me tomorrow.

2 2 4 **call on** ～ 「～を訪問する」

一語で言うと visit。call につられてこの熟語を「電話をかける」と混同する人が多いが、「電話をかける」は、call up。

(call) (on)

2 2 5

彼は父の忠告を軽んじた。

He made ()() his father's advice.

2 2 5 **make little of** ～ 「～を軽んじる」

make much of ～「～を重んじる」とセットにして覚えておきたい。**make** が **think** にかわっても意味は同じ。また、**little** は“**light**”にも置き換えられる。いずれにしても語数はすべて同じになるから、どれが選択肢として出ても対応できるようにしておこう。

(little) (of)

2 2 6

桜は今週がいちばんの見ごろだ。

The cherry blossoms are at ()() this week.

2 2 6 **at one's best** 「最高の状態で」

よく似た表現で **at (the) best** があるが、これは「よくても、せいぜい」というやや否定的な表現。それに対してこちらは肯定的な意味。

(their) (best)

2 2 7

事故のため学校に遅れた。

()()() an accident, I was late for school.

2 2 7 **on account of** ～ 「～の理由で」

穴埋めや和訳問題で頻出し、とくに前置詞の **on** を忘れがちなので完全に覚えよう。簡単に言い換えると **because of** である。**account** 自体に「説明、根拠」の意味があることを知れば理解は早い。

(On) (account) (of)

2 2 8

この観点からすれば、彼は正しかったと言えよう。

From this ()()(), we should say he was right.

2 2 8 **from** ～ **point of view** 「～の観点から(見て)」

point of view は「観点、見地」の意味。また、「観点、見地」は、英作表現でも非常によく出てくる。そんなとき、この熟語ひとつでも覚えておけばとまどうこともない。**from** ～ **viewpoint** もまったく同じ意味。

(point) (of) (view)

2 2 9

彼はときどき私の息子に会いにくる。

He comes to see my son now () ().

2 2 9 now and then 「ときどき」

every がついて every now and then となっても意味は同じ。たくさんの同意表現があるが、sometimes, once in a while は最低おさえておきたい。

(and) (then)

2 3 0

油が切れてきた。(=不足しつつある/足りなくなっている)

We are () () () oil.

2 3 0 run short of ~ 「～が不足する」

short が「～が不足する」であることを知れば、意味はやさしい。be 動詞を使って be short of ~だと「～が不足している状態」だが、動詞の“run”を用いることで、「不足する」「足りなくなる」という表現になるのがポイント。

(running) (short) (of)

2 3 1

彼にはよくあることだが、家に教科書を忘れた。

As () () () () () him, he left his textbook at home.

2 3 1 as is often the case (with ~)

「(～には)よくあることだが」

文頭や文中に出てくるが、カンマ(,)がつくので区別はつきやすい。多少長い表現だが、決まり文句なので訳とともにスラスラ口について出るように記憶したい。

(is) (often) (the) (case) (with)

2 3 2

私は良いレストランを捜して町へ出た。

I went into the town () () () a good restaurant.

2 3 2 in search of ~ 「～を捜して」

search が動詞として使われると、要求を示す for を用いた search for ~「～を捜す」の形が一般的。これに対し、search が名詞のときは in search of ~となり、意味上の目的を示す of が用いられるのがポイント。

(in) (search) (of)

2 3 3

私はこの機会を利用するつもりだ。

I will ()()() this opportunity.

2 3 3 **make use of** ～ 「～を利用する」

use の前にいろいろな形容詞がついて、意味が変わってくる熟語である。たとえば“**He made bad use of the machine.**”「かれはその機械を悪用した」のように、bad がはいると「悪用」の意味になる。一語入るだけで **make** と **use of** のつながりが見えにくくなるので注意しよう。

(make) (use) (of)

2 3 4

私はさまざまな困難を経験した。

I ()() a lot of trouble.

2 3 4 **go through** ～ 「～を経験する」

一語で言い換えると **experience** である。go 「行く」+ **through** 「通過する」で何となく意味はとれても、訳出の際は困ることになる。また、「詳細に調べる」「通り抜ける」の意味もあることを知っておこう。

(went) (through)

2 3 5

かぜをひかないように気をつけなさい。

Be careful () you () catch a cold.

2 3 5 **lest [for fear]** ～ **should** …

「～が…しないように」

例文で“**Be careful**”に続く部分は、“**for fear you should catch a cold**”と書き換え可能。また、**lest** を使うときは **should** が省略されることもあり、その際は動詞の原形が来る。**in case** …「するといけないから」も合わせて覚えておこう。

(lest) (should)

2 3 6

春はもうすぐだ。

Spring is near ()().

2 3 6 **at hand** 「近くに」

hand = 「手」だから、「手近に」という空間的な距離の近さはすぐに思いつくだろう。しかし、むしろ例文のように時間的に「間近に」という意味で使われるほうが多いので、こちらを中心に覚えるほうがいい。

(at) (hand)

237

彼は何と言ってよいか途方に暮れた。

He was at () () for a word.

237 **at a loss** 「途方に暮れて」

loss は「損失」だから「気分を失っている状態」だと理解すれば覚えやすい。また at a loss の後には例文のように for ～がくることが多いが、“He was at a loss what to say.” のように疑問詞を使った表現になることがあるのも押さえない。

(a) (loss)

238

昨日は一日中英単語を暗記した。

I () English words () () all day yesterday.

238 **learn ～ by heart** 「～を暗記する」

一語で表すなら memorize 「記憶する」。remember は「思い出す」という意味であり、「覚える」という動作とは違うから混同しないように。直訳すると「心によって学び取る」だから、心に刻みつけるイメージで「～を暗記する」と覚えれば忘れない。

(learned) (by) (heart)

239

私たちは狭い部屋を最大限に利用した。

We made () () () our small room.

239 **make the best of ～** 「～を最大限利用する」

～にくるのは不利な状況や環境。有利な状況を「最大限に利用する」というときには、make the most of ～のほうを使う。訳は同じでも状況は異なるから、単純に置き換えられないことは知っておこう。

(the) (best) (of)

240

彼は生まれつき温和な気質だ。

He is gentle () ().

240 **by nature** 「～生まれつき」

簡単なようで要注意な熟語。nature が「自然」だからといって「自然に」などと訳さないように。この nature は「性質、性分」の意味だから、by nature で「生まれつきの性質(天性)として」と理解する必要がある。

(by) (nature)

2 4 1

あなたは彼をその事故のことで責めることはできない。

You can't blame him () the accident.

2 4 1 **blame** ～ **for** … 「…のことで～を非難する」

blame (人) **for** (事柄) の構文で、「…のことで(人)を非難する」の意味になる。穴埋めの際は **for** を問われやすいが、訳につられて **about** などとしてはいけない。ここは理由を示す **for** が正解。また下線部訳では、「だれ」を「何について」非難するのかわかりやすく書くのがポイントである。

(for)

2 4 2

あなたは必ず約束を果たさねばならない。

You must fulfill your promise () ().

2 4 2 **without fail** 「必ず」

「失敗」の意味の名詞 **fail** を使った重要熟語。 **without fail** を直訳すれば、「失敗なしに」となるが、和訳の際はそれでは弱い。「必ず～する」と強い調子で訳すことがポイント。 **never fail to** ～ 「必ず～する」(→261)とともに **fail** の必須用法なので、完全にマスターしてほしい。

(without) (fail)

2 4 3

U.N.は「国連」を表す。

U.N. () () the United Nations.

2 4 3 **stand for** ～ 「～を表す」

「～を支持する」という意味もあるが、文脈を考えれば訳出ではさほど苦勞を感じないはず。例文のように意味や略字に関して、「～を表す」と訳す。一語で言い換えれば **represent** 「表す、代表する」で、より簡単には **mean** 「意味する」でもいい。

(stands) (for)

2 4 4

地震の場合にはただちにこのビルを離れるように。

Leave this building immediately in () of an earthquake.

2 4 4 **in case of** ～ 「～の場合には」

case に「場合」の意味があることから、 **in case of** ～で「～の場合には」の意味をとることはむずかしくないはずだ。

(case)

2 4 5

時代に遅れないように新聞を読みなさい。

Read a newspaper to () () () the times.

2 4 5 **keep up with** ～ 「～に遅れずについていく」

keep の代わりに catch を使うと catch up with ～「～に追いつく」になり、こちらでも重要表現なのでペアにして覚えたいところだ。

(keep) (up) (with)

2 4 6

彼はそんなことをするほどばかではない。

He () () () () do such things.

2 4 6 **know better than to** ～ 「～するほどばかではない」

かりにまったくこの表現を知らなくても、「～するよりもより良く知っている」が直訳なので、意味だけはなんとかとれるはず。熟語表現として丸ごと暗記してほしい。

(knows) (better) (than) (to)

2 4 7

空港に 5 時に私を(車で)迎えに来てください。

Please () me () at the airport at five.

2 4 7 **pick up** 「拾う」

pick up は文字通り、「～を拾う、拾い上げる」の意味だが、「人」に対して使われたときは「(車などの乗り物で)人を拾う」すなわち「迎えにくる」の意味が出てくることを、ぜひ知っておいてもらいたい。例文のように、「動詞 + 前置詞」の後に人を示す代名詞がくる場合は、「動詞 + 代名詞 + 前置詞」の語順にする。

(pick) (up)

2 4 8

この件について危険は、たとえあるとしても、ほとんどない。

There is little, () (), risk in this matter.

2 4 8 **if any** 「たとえあるとしても/もしあれば」

文中に挿入されるか、文につけ足す形で用いられるので、和訳の際も同様の形で訳すといい。この熟語を if anything 「どちらかと言えば」(→249)と混同しないよう注意。

(if) (any)

249

事態はどちらかといえば良い方だ。

The situation is better, () ().

249 **if anything** 「どちらかといえば」

比較級といっしょに用いられることが多く、「どちらかといえば」という意味を付加する熟語。

(if) (anything)

250

会社設立 20 周年を記念してパーティを開いた。

We held a party () () () the 20th anniversary of our company.

250 **in honor of** ～ 「～に敬意を表して」

honor が「名誉」の意味なので、熟語として知らなくても意味はとれるが、和訳の際は適当な訳語が思いつかずに困ることがある。きちんと「～に敬意を表して」と覚えておくべきだ。このほか、例文のように経緯の対象が「事」の場合には、「～を記念して」などと柔軟に意識するのもポイント。

(in) (honor) (of)

251

私たちは結局幸せになるでしょう。

We will be happy () () () run.

251 **in the long run** 「結局は」

「(長い目でみると)結局は」という意味で、時間の経過を前提とした表現。after all も「結局は」だが、こちらは、あらゆる手段を講じた後の「結局は」といことで、単純な言い換えはできない。

(in) (the) (long)

252

私には高価な車を買う余裕がない。

I cannot () () buy an expensive car.

252 **can afford to** ～ 「～する余裕がある」

afford は can と結びついて出てくることがほとんど。通常は肯定文でなく、例文のように否定文で「～する余裕がない」と出てくる。かりに afford to がなくても、意味をとらえるのに影響はないが、理解したことを示すためにもただ「できない」ではなく、「余裕がない」とする。

(afford) (to)

2 5 3

どうやってこの問題に向き合うのですか？

How do you () () this problem?

2 5 3 **figure out** ～ 「～を理解する」

訳出がむずかしい熟語。**figure**は「姿、かたち」で、**out**は「外へ」だから、「かたちを外へ出す」→「はっきりと見えるようにする」というニュアンス。訳語としては「～を解く」「～を計算する」「～を考え出す」などいろいろだが、「～を理解する」と覚えて応用するのがベスト。

(figure)(out)

2 5 4

大雨のため、私たちはそこにとどまらざるを得なかった。

Because of the heavy rain, we were () to stay there.

2 5 4 **be obliged [forced] to** ～ 「～せざるを得ない」

obligeは「(人に)無理に～させる」= **force** という意味の重要な動詞。これが受け身になったと考えるとよくわかる。何らかの原因で「～せざるを得ない」状況が読みとれればいい。例文は、“The heavy rain obliged [forced] us to stay there.”と無生物主語構文にもできる。

(obliged)

2 5 5

私たちは香港経由で帰ってきた。

We came back by () () Hong Kong.

2 5 5 **by way of** ～ 「～経由で」「～として」

「経由で」の訳はわかりやすいが、忘れてならないのは「～として」の訳。“She gave him a book by way of thanks.”「彼女は感謝の印として彼に本をあげた」のようにつかう。**way**の意味は、「～経由で」のときが「道」、「～として」のときは「手段、方法」と変わる。一語で言い換えると **via**。

(way)(of)

2 5 6

(電話を受けて) 少々お待ちください。

Hold (), please.

2 5 6 **hold on** ～ 「(電話を)切らないでおく」

口語の表現に多く使われ、「(がんばって)持ちこたえる」「(止めないで)続ける」の意味が基本にある。ここから電話を「切らないでおく」の意味も出てくるが、これを先にマスターするのが手っとり早い。“on”は継続の意味。「受話器を **hold** した状態を保つ(on)」と覚えればいい。

(on)

257

彼は近所の人とうまくやっている。

He is getting () with his neighborhood.

257 **get along (with ~)** 「(〜と)仲よくやっていく」

along with ~だけだと「いっしょに」。そこに get がつくと、「〜とうまくやっていく、暮らしていく」の意味が出る。along がわからないと穴埋めで困るが、along に「〜にそって」の意味があることを思い出し、「寄りそってやっていく」イメージを持てれば大丈夫。

(along)

258

彼は、文学の研究に専念した。

He devoted () () the study of literature.

258 **devote oneself to ~** 「〜に専念する」

devote は「捧げる」だから、「〇〇自身を〜に捧げる」→「〜に打ち込む、専念する」となる。oneself が必要なのは、devote が他動詞で目的語をとるため。例文を“**He was devoted to the study ~**”と受動態にしても訳は同じ。このとき oneself は不要になるので注意。

(himself) (to)

259

彼は弁護士になれるという希望に執着していた。

He () () the hope that he could be a lawyer.

259 **cling to ~** 「〜に執着する」

「cling ときたら to 」と言えるまで、くり返し練習すべき熟語。ただ単に「くっついている」という意味で“**Wet clothes cling to the skin.**”「ぬれた服が肌にくっつく」などとも使う。また、例文は過去形だから“**clung**”となる。案外忘れがちな語形変化だから注意しよう。

(clung) (to)

260

彼は約束を破ったと私を非難した。

He () me () having broken our promise.

260 **accuse A of B** 「B で A を非難する」

of 以下は非難の理由を示す名詞、動名詞。理由だからつい前置詞を for としたくなるが、for がくるのは blame ~ for … 「…で〜を非難する」(→241)の場合。accuse のときは“of”。

(accused) (of)

2 6 1

彼は必ず3時にここに来る。

He never () () come here at three.

2 6 1 never [cannot] fail to ～ 「必ず～する」

fail to ～だと「～しない」だが、そこに never という強い否定語がついて、「決して～しないということはない」→「必ず～する」と強い肯定の意味になる。また、例文では“fails”と三単現の形になるが、見落としがちなので要確認。

(fails) (to)

2 6 2

私は警察と接触をとろうと試みた。

I tried to get () () with the police.

2 6 2 get [keep] in touch with ～

「～と接触をとる[保つ]」

穴埋め頻出の熟語。どの語が抜かれても対応可能にしておくこと。“get”なら接触を「とる」動作、“keep”なら「保つ」と持続の意味になることは十分に理解したい。

(in) (touch)

2 6 3

彼の罪は疑う余地がない。

His guilt leaves () () for doubt.

2 6 3 leave no room for ～ 「～の余地がない」

room は「部屋」以外に「空間、余地」という抽象的な意味があるのを知っておくとわかりやすい熟語。とくに頻出は、例文の no room for doubt 「疑う余地がない」や、“There is room for correction.” 「訂正の余地がある」など。穴埋め、部分訳では“room”が問われやすい。

(no) (room)

2 6 4

彼女は昨日のパーティに現れなかった。

She did not () () at the party yesterday.

2 6 4 show up 「現れる」「目立つ」

例文のように、パーティなどに「現れる」(= appear)以外にも、「目立つ」「目につく」など、他に比べて「はっきり見える」意味で使われるときがある。訳出では、まず文脈をとらえてから取りかかろう。

(show) (up)

265

私は千円しか奪われなかった。

I was robbed of () () than 1000 yen.

265 **no more than** ～ 「わずか～だけ」

no で否定されている内容は more の部分、すなわち 1000 円より上の金額。したがって、2000 円、3000 円ではなく「わずか 1000 円」(1000 円ちょうど)というのがこの表現の意味。反対に no less than ～なら、500 円、600 円でなく「1000 円も」となる。

(no)(more)

266

私はせいぜい千円しか奪われなかった。

I was robbed of () () () 1000 yen.

266 **not more than** ～ 「(多くとも)せいぜい」

not は more than 1000 yen, つまり「1000 円をこえる」ことそのものが否定される。結局「800 円、900 円かもしれないが、最大で 1000 円」ということになり、「せいぜい(多くとも)1000 円」の訳が出てくる。not less than ～も同様で、「最小で 1000 円」つまり「少なくとも 1000 円」の意味。

(not)(more)(than)

267

くじらが魚でないのは、馬が魚でないのと同じだ。

A whale is () () a fish () a horse is.

267 **no more** ～ **than** …

「…でないのと同様に～でない」

a horse is の後には a fish が省略されていることを理解しよう。そうすれば例文は「くじらが魚である」ことは「馬が魚である」と比べて no more 「それ以上ではない」というように読みとれるはず。

(no)(more)(than)

268

彼は高名な画家だから、そういうものとして扱うべきだ。

He is a famous painter and should be treated () ().

268 **as such** 「そういうものとして」

文末にくる副詞句。as 「～として」、such 「そんな、こんな」と分解しても理解はできる。such ～ as … 「…であるような～」などと混同しがちだが、such の指すものをキッチリ考えれば大丈夫。

(as)(such)

269

君がそのニュースを聞いて驚くのももつともだ。

You () () be surprised at the news.

269 **may well** ～ 「～するのももつともだ」

この熟語は、have a good reason に置き換えられる。may as well 「～したほうがよい」(→270)と非常に混同しやすいが、混同を防ぐには、“as” に注目すること。as がつくと比較表現となり、「～のほうが」の意味が出てくる。may well にはその意味はない。

(may) (well)

270

ギャンブルに金を使うなら、捨てるほうがまだ。

You may () () throw your money away () spend it in gambling.

270 **may as well** ～ (as …)

「(…するくらいなら)～したほうがよい」

may as well だけなら had better 「～したほうがよい」と同じで、後にはかならず動詞の原形がはいる。後にもう一つ as がつくと「～するくらいなら」の比較の表現になる。

(as) (well) (as)

271

もし水がなければ、何物も生きられないだろう。

If () () () () water, nothing could live.

271 **if it were not for** ～ 「もし～がなければ」

仮定法の慣用表現。If がないときは “Were it not for” と倒置の形。But for ～(→272)、Without ～も同じ意味。これらの書き換えは覚えておこう。

(it) (were) (not) (for)

272

君の助けがなかったら、私は失敗していただろう。

() () your help, I would have failed.

272 **but for** ～ 「～がなければ」

熟語自体より、書き換えができるかどうかのポイント。例文なら “if it had not been for your help …” となる。もし()が一つだったら迷わず Without を入れよう。

(But) (for)

273

私のコートはついにだめになった。

My coat has finally () ().

273 **wear out** 「(使い古して)だめになる」

例文のように用いるほかに、be worn out のように受け身の形で用いられることもある。「身につける」意味の wear に「最後まで、すっかり」の意味の“out”がついた形なので、意味はとれる。

(worn)(out)

274

彼の言っていることは意味をなさない。

What he is saying does not () ().

274 **make sense** 「意味をなす」

sense には「感覚、感じ」のほかに、「意味」の意味もある。make sense で「意味を作る」→「意味をなす」。実際は「意味をなさない、筋が通らない」と否定の形が多く、It doesn't make any sense. のように使われる。

(make)(sense)

275

この薬は君には効くだろう。

This medicine will () you ().

275 **do ~ good** 「～に益をもたらす」

“do 人 good” の形が一般的。単に「～のためになる」と訳すほうがいいときもある。反対の意味は do ~ harm 「～に害を与える」。動詞として give や bring ではなく“do”を使っている点に注意したい。

(do)(good)

276

彼はけさ、東京へ向けて出発した。

He () () () Tokyo this morning.

276 **set out for ~** 「～へ向けて出発する」

set out は一語で言い換えると start 。だから start for ~でも「～へ向けて出発する」となる。“for”は目的地の方向を示す用法である。

(set)(out)(for)

277

人々は皆、あなたの考えに賛成だ。

All the people are in () () your idea.

277 **in favor of** ～ 「～に賛成して」

favor 自体に「好意」「引き立て」の意味があることをおさえない。また、favor の形容詞形 favorite 「大好きな」は、英作で使えるから覚えてしまおう。

(favor) (of)

278

あなたは、すべてをお金の観点から見ている。

You see everything () () () money.

278 **in terms of** ～ 「～の(観)点では」

term 「用語」の意味からはなかなか思いつきにくい。文脈により「～に関しては」と訳したり、「～の立場から考えると」など言葉を補ったりするが、「～の(観)点では」という根本の意味をまずおさえよう。くれぐれも terms の“s”を忘れないように。(→ 228 参照)。

(in) (terms) (of)

279

誰がこのビルの管理者ですか？

Who is in () of this building?

279 **be in charge of** ～ 「～を管理している」

charge に「義務、責任」の意味があることがポイント。これに状態を表す in がついて、「義務や責任を負った状態にある」というのが、この熟語の意味。

(charge)

280

私たちは未来のために歴史を学ぶのです。

We study history for () () () our future.

280 **for the sake of** ～ 「～のために」

sake だけでも「ため、目的、利益」の意味。～が人の場合、for one's own sake も同じ意味でよく使われ、それぞれ書き換えも可能。例文のように～が事柄の場合には、for the sake of ～が使われる。

(the) (sake) (of)

281

大統領に会ったとき、私の夢はすべて実現した。

When I met the President, all my dreams () ().

281 **come true** 「実現する」

come to ~で「~するようになる」というように、come 自体に「~になる」の意味があることを知っておけば訳は簡単。「本当(true)になる」→「実現する」とすぐ結びつく。文脈によっては「本当になる」のままでもいいこともある。一語なら realize だが、こちらは他動詞。

(came) (true)

282

私は喜びでわれを忘れた。

I was () myself with joy.

282 **beside oneself with** ~ 「~にわれを忘れて」

「自分自身(oneself)のかたわら(beside)にいる」すなわち「われを忘れる」と考える。喜びだけでなく、怒りや悲しみで逆上してわれを忘れる場合にも使う。イメージがわかりやすい訳がなかなか出てこないことがあるから、“oneself”(=われ)の部分に注目して覚えてみよう。

(beside)

283

私たちはとても疲れていた。さらに悪いことには雨が降り出した。

We were very tired, and () () () (), it began to rain.

283 **to make matters worse** 「さらに悪いことには」

用法としては to be frank with you … 「率直に言えば…」と同じで、文に付加するよう使う。what is worse も同じ意味。

(to) (make) (matters) (worse)

284

犬が外へ出ないように気をつけてください。

Please () () it that the dog does not go out.

284 **see to ~[see to it that …]** 「~に気を付ける」

see は「見る」以外に「気をつける」の意味があり、see to ~がその典型例。注意点は、~の部分が that 節になる場合で、このときは that 以下を受ける it が~の位置に形式的に入る。

(see) (to)

285

私は寝るまえに本を読むことにしている。

I make () () () to read before going to bed.

285 **make it a rule to** ～ 「～することになっている」

“it” は to 以下を示し、直訳は「～することをきまりとしている」となる。rule の前の“a”は絶対に忘れないように。また、動名詞を使って“make a rule of ~ing”と書き換え可能。

(it)(a)(rule)

286

父親が死んだ後、彼が事業を引き継いだ。

He () () the business after his father died.

286 **take over** ～ 「～を引き継ぐ」

事業、資産、地位などを「引き継ぐ」の意味。succeed to ～に書き換え可能(同じ二語なので例文の()にもはいりうる)。このときの succeed は「成功する」ではなく「継続する」の意味。

(took)(over)

287

そのような状況では、私たちは成功できない。

() such (), we can not succeed.

287 **under** ～ **circumstances** 「～の状況のもとでは」

under 「下」 + circumstances 「状況」だから、意味をとるのには苦勞しない。穴埋めや正誤問題では、circumstances とかならず“s”をつけること。

(Under)(circumstances)

288

彼の言ったことがわかりましたか？

Did you () () what he said?

288 **make out** ～ 「～を理解する」

熟語の場合の“make”は、「作る」にとらわれるとわからないことが多い。この熟語も make が「～にする、させる」、out が「すっかり、最後まで」の意味で使われ、make out で、「明らかにする」というニュアンスが出てくる。一語で言うなら understand。

(make)(out)

289

私はスミス氏と面識がある。

I am () () Mr. Smith.

289 **be acquainted with** ～ 「～を知っている」

人、物、事などを「知っている」の意味だが、かならずしもよく知っているとは限らないことに注意。一語なら know だが、知っているのが人の場合には「面識がある」と訳すと、この熟語の持つニュアンスがうまく伝わる。

(acquainted) (with)

290

彼は、「オレのことはほっといてくれ」と言った。

He said, "() me ()".

290 **leave** ～ **alone** 「～をそのままにしておく」

leave はもともと「～のままにする」の意味だから、それに alone 「ひとりで」がついたと思えば読みとるのは簡単。ただ文章中ではふつう“leave”と“alone”が例文のように離れているから、“leave”だけ見て考え込まないように。

(Leave) (alone)

291

あなたはこの新しい仕事がすぐに好きになるだろう。

You will () () this new job soon.

291 **take to** ～ 「～が好きになる」

訳では「～が好きである」と状態を表す表現にせず、「～が好きになる」と、行為(動作)を表すように訳するのがポイント。前者は like の意味だが、これとはしっかり区別しよう。文脈によっては、「(習慣的に)好きになる」→「くせになる」と訳すことも知っておくと便利。

(take) (to)

292

上司は私たちの提案を拒否した。

Our boss () () our proposal.

292 **turn down** 「拒否する」

一語で言い換えると refuse や reject。また、turn up は「姿を現わす」であって、「受け入れる」ではないので間違えないよう注意。

(turned) (down)

293

私たちは彼をうそつきとまで呼ぶことはできない。

We can't go so () () to say he is a liar.

293 go so far as to ～ 「～しきえする(～までする)」

理屈抜きに熟語として覚えてしまおう。

(far) (as)

294

どうぞ遠慮なくケーキを召し上がってください。

Please help () () the cake.

294 help oneself to ～ 「自分で(自由に)とって食べる」

会話文などで問題にされる口語表現。どこにも「食べる」という意味の表現は見当たらないが、食事の場面で「食べる(飲む)」の意味で使う。この熟語が出てきたら、「あまり気どらず、セルフサービスで」という雰囲気を感じられるようになれば文句なしだ。

(yourself) (to)

295

彼はけっして紳士などというものではない。

He is () () a gentleman.

295 anything but ～ 「けっして～でない」

but は「～以外」の意。例文の直訳は、「彼は紳士以外の何ものかだ」となる。そこから「けっして紳士ではない」と出てくる。肯定文でも否定的に訳し、but のニュアンスを出すことが重要。nothing but ～「～にすぎない」も復習しておこう。

(anything) (but)

296

父の成功は、私には何の価値もない。

My father's success () () nothing to me.

296 count for nothing 「なんにもならない」

count for ～で、「～の価値がある」の意味があり、これを知っておけば、for 以下に何がきても理解できる。たとえば count for much なら「大変な価値がある」となる。count for nothing なら「価値がない」→「何にもならない」という訳になる。

(counts) (for)

297

彼女には多くの欠点があるが、やはり私は信頼している。

She has many faults, but I trust her none () ().

297 none the less 「それにもかかわらず」

「the+比較級」が基本にある熟語。例文なら、「彼女は多くの欠点があるが、それによって彼女を信頼するのがそれだけ少なくなることはまったくない」が直接の意味。逆の形 all the more は「それだけ一層」。

(the) (less)

298

(店で店員が客に対して)「ご用をお伺いしておりますか?」。

Are you () ()?

298 wait on ～ 「～に仕える」

会話文で、例文のように店員の決まり文句として出てくるほか、食事の場面で、「～に(食事の)給仕をする」と出てくることもある。wait for ～「～を待つ」の wait とは区別を。

(waited) (on)

299

私の冗談に、聴衆はどっと笑い出した。

At my joke, the audience () () laughter.

299 burst into laughter 「どっと(突然)笑い出す」

burst は「爆発する」の意味だから、burst into ～ で「爆発して～の状態にはいつていく」イメージ。burst into laughter なら「どっと笑いだす」、burst into tears なら「突然ワッと泣き出す」の感じだ。

(burst) (into)

300

一体全体なぜ君がここにいるのだ?

Why () () are you here?

300 on earth 「一体全体」

強い疑問や否定を示す英語ならではの大きさな表現。同意表現に in the world もあるが、どちらも同じ意味。くれぐれも on the earth としないように。

(on) (earth)